

## 野菜の生育状況及び価格見通し（平成28年11月）について（東京都中央卸売市場）

（総論）

品 目	現 在 の 生 育 状 況
根 菜 類 (だいこん及びにんじん)	だいこんは、9月中旬以降の降雨による湿害に伴う初期生育不良のため、生育が遅延している。 にんじんは、8月下旬の降雨により発芽不良となった。
葉 茎 菜 類 (はくさい、キャベツ等)	はくさい及びキャベツの生育は平年並み。 ほうれんそうは、9月上旬中旬の降雨により、発芽不良となったものの、その後の天候回復により、生育は回復傾向。 ねぎは、9月の日照不足により肥大不足となっている。 レタスは、9月中旬以降の降雨により、生育不良となったものの、その後の天候回復により、生育は回復傾向。
果 菜 類 (きゅうり、なす等)	きゅうり及びなすは、9月中旬以降の日照不足により、着果数量が減少しているものの、その後の天候回復により、生育は回復傾向。 トマト及びピーマンは、10月上旬以降の日照不足により、着果数量が減少。
土 物 類 (ばれいしょ、さといも及びたまねぎ)	ばれいしょは、6月の長雨や8月の台風による湿害に伴い肥大不足となっており、小玉傾向。 さといも及びたまねぎの生育は平年並み。

（各論）

品 目	主産地 ※（ ）書きは 27年11月の 入荷シェア	今 後 の 生 育 及 び 出 荷 見 通 し	価格見通し (平年(直近5か年平均)比)	
			11月前半	11月後半
だ い こ ん	千 葉(68%) 神奈川(15%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 青森県での8月の台風による湿害に伴う肥大不足や、千葉県での8月下旬の降雨による発芽不良等のため、10月の出荷数量は平年を下回り、価格は平年を上回って推移。</li> <li>・ 神奈川県での生育が平年並みであるものの、<u>千葉県での9月中旬以降の降雨による湿害に伴う初期生育不良のため、11月前半も出荷数量は平年を下回り、価格は平年を上回る見込み。</u></li> <li>・ 11月後半出荷分の生育は平年並みであるため、<u>11月後半の出荷数量及び価格は平年並みに回復する見込み。</u></li> </ul>	<b>高値水準 で推移</b>	平年並みに回復

にんじん	千葉(58%) 北海道(30%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>北海道での8月の台風による湿害に伴う肥大不足のため、10月の出荷数量は平年を下回り、価格は平年を上回って推移。</li> <li>後続の産地である<u>千葉県での8月下旬の降雨による発芽不良のため、11月も出荷数量は平年を下回り、価格は平年を上回る見込み。</u></li> </ul>	高水準 で推移	高水準 で推移
はくさい	茨城(79%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>他の野菜の高値傾向により、代替需要が増加し、小売業者等による引き合いが強まったため、10月の価格は平年を上回って推移。</li> <li>茨城県での生育が平年並みであり、<u>他の野菜の高値傾向が解消され、代替需要が落ち着く見込み</u>であるため、<u>11月の価格は平年並みに回復する見込み。</u></li> </ul>	平年並み に回復	平年並み で推移
キャベツ	千葉(46%) 愛知(18%) 茨城(17%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>他の野菜の高値傾向により、代替需要が増加し、小売業者等による引き合いが強まったため、10月の価格は平年を上回って推移。</li> <li><u>千葉県、愛知県及び茨城県での生育が概ね平年並みであり、他の野菜の高値傾向が解消され、代替需要が落ち着く見込み</u>であるため、<u>11月の価格は平年並みに回復する見込み。</u></li> </ul>	平年並み に回復	平年並み で推移
ほうれんそう	群馬(40%) 茨城(19%) 千葉(13%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>群馬県での9月上中旬の降雨による播種の遅延や発芽不良等のため、10月の出荷数量は平年を下回り、価格は平年を上回って推移。</li> <li>10月中旬以降の天候の回復により、<u>生育は回復傾向にあるため、11月の出荷数量及び価格は平年並みに回復する見込み。</u></li> </ul>	平年並み に回復	平年並み で推移
ねぎ	青森(15%) 秋田(13%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>青森県での9月の日照不足による肥大不足等のため、10月の出荷数量は平年を下回り、価格は平年を上回って推移。</li> <li>10月上旬以降の日照時間の回復により、生育は回復傾向にあるものの、<u>9月の日照不足による肥大不足の影響が残るため、11月前半も出荷数量は平年を下回り、価格は平年を上回る見込み。</u></li> <li><u>11月後半の出荷数量及び価格は、平年並みに回復する見込み。</u></li> </ul>	高水準 で推移	平年並み に回復
レタス	茨城(62%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>長野県及び茨城県での9月中旬以降の降雨に伴う生育不良のため、10月の出荷数量は平年を下回り、価格は平年を上回って推移。</li> <li>10月上旬以降の天候の回復により、<u>生育は回復傾向にあるため、11月の出荷数量及び価格は、平年並みに回復する見込み。</u></li> </ul>	平年並み に回復	平年並み で推移

きゅうり	埼玉(28%) 群馬(21%) 宮崎(15%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>埼玉県及び群馬県での9月中旬以降の日照不足による着果数量の減少のため、10月の出荷数量は平年を下回り、価格は平年を上回って推移。</li> <li>10月中旬以降の天候の回復により、11月に収穫時期を迎える着果数量が平年並みであるため、11月の出荷数量及び価格は、平年並みに回復する見込み。</li> </ul>	平年並みに回復	平年並みで推移
なす	高知(56%) 福岡(14%) 栃木(10%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>高知県及び栃木県での9月中旬以降の日照不足による着果数量の減少のため、10月の出荷数量は平年を下回り、価格は平年を上回って推移。</li> <li>10月上旬以降の天候の回復により、11月に収穫時期を迎える着果数量が平年並みであるため、11月の出荷数量及び価格は、平年並みに回復する見込み。</li> </ul>	平年並みに回復	平年並みで推移
トマト	熊本(40%) 千葉(18%) 愛知(12%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>千葉県及び茨城県での9月中旬以降の日照不足による着果数量の減少のため、10月の出荷数量は平年を下回り、価格は平年を上回って推移。</li> <li>後続の産地である熊本県での10月上旬以降の日照不足により、11月に収穫時期を迎える着果数量が減少したため、11月も出荷数量は平年を下回り、価格は平年を上回る見込み。</li> </ul>	高水準で推移	高水準で推移
ピーマン	茨城(48%) 宮崎(16%) 高知(11%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>茨城県での9月中旬以降の日照不足による着果数量の減少のため、10月の出荷数量は平年を下回り、価格は平年を上回って推移。</li> <li>茨城県及び宮崎県での10月上旬以降の日照不足により、11月前半に収穫時期を迎える着果数量が減少したため、11月前半も出荷数量は平年を下回り、価格は平年を上回る見込み。</li> <li>11月後半に収穫時期を迎える着果数量が平年並みであるため、11月後半の出荷数量及び価格は、平年並みに回復する見込み。</li> </ul>	高水準で推移	平年並みに回復
ばれいしょ	北海道(98%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>北海道での6月の長雨や8月の台風による湿害に伴う肥大不足により、小玉傾向となったため、出荷数量は平年を下回り、価格は平年を上回る見込み。</li> </ul>	高水準で推移	高水準で推移
さといも	埼玉(62%) 千葉(13%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>埼玉県及び千葉県での生育が平年並みであるため、出荷数量並びに価格は平年並みで推移する見込み。</li> </ul>	平年並みで推移	平年並みで推移
たまねぎ	北海道(97%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>北海道での生育が平年並みであるため、出荷数量及び価格は平年並みで推移する見込み。</li> </ul>	平年並みで推移	平年並みで推移

注1:「平年並み」とは、平年との比率が80%以上、120%未満であることを示している。  
注2: 各品目の主産地及び東京都中央卸売市場における卸売会社から聞き取りを行った。